

➤ 宿題①「つながりはどこにある（つくる）ものだと思いますか？」

(1)

繋がり、あらゆる分野、場面で存在している。家庭が大元であり家族が繋がり、社会へと繋がる。地域がありそこは職場、団体、学校など塊がありその中でまた交わり繋がっている。

(2)

「つながり」について「居場所」と捉えます。

あらゆる立場の人にとって、居場所があることは幸せです。組織やコミュニティにおいて帰属意識があれば、安心感があり自己肯定感が育まれます。一方で、居場所が無ければ不安感が高まり、そのため自分本位な振る舞いをしてしまうかもしれません。すでに組織等の中で安心して生活している人が、居場所が無いと感じている人のために何かできないか、どのように関わるかを考え実践することで居場所ができ、つながりができるのではと考えます。

(3)

人は生まれて家庭（家族）とつながり、教育現場で教師や友人等とつながり、社会人となり職場でのつながりができる。いつの時でも、その人それぞれの「つながり」があると思う。

私の場合、「地域とのつながり」ができたのは、子どもの学校のPTA役員を引き受けたことがきっかけとなった。そのときのつながりで、子どもが卒業後もいろいろな活動に参加するようになり、勉強会等にも参加することができた。また、そこで地域のいろいろな世代、立場の方々と知り合うことができた。

「つながり」をつくるきっかけは、その人それぞれの意思、希望であると思う。地域活動への「つながり」をつくるきっかけは、繰り返し参加を呼び掛けること、繰り返し活動内容を知らせ、参加を呼び掛けること、今の40歳代、50歳代のおかれた状況を考える必要があると思う。すべての人が興味がないわけではないと思う。

(4)

地域のつながりは様々なきっかけで生じます。例えば隣近所の付き合いから生まれるつながりに始まり、町内会や自治会などの地縁組織に参加することにより生まれるつながりや、ボランティア団体やNPO（特定非営利活動法人）など地域の課題を解決するために設立された組織に参加することにより生まれるつながりなどがありますが、近隣住民同士の交流は不活発で、地域における町内

会・自治会等の中間組織があまり機能していないといえます。

コックをひねれば水やガスがでる。街の安全は警察や消防が守ってくれる。そんなサービスを前提に、わずらわしいことは「公共（役所）」にまかせて、「私は一人でも生きていける」と思ってきました。人と人とのつながりがどんどん希薄になるなか、周りの人とうまく関係をつくることができずに孤立化する人たちやお互いが無関心ななかで発生する都市型犯罪の問題など、「ひとりで生きる」ことの問題点が明らかになってきましたし、私自身も市外で働いているため、最近気づきました。さらに、大震災は、公共サービスが途絶えたときの「ひとりで生きる」ことの脆さをあらわにしました。結局あのとき役に立ったのは、外部から駆けつけた市民ボランティアの支えであり、なによりも近所どうしの見守りや支えあう力、すなわち地域コミュニティの力だと思います。地域コミュニティがしっかりしていた地域のほうが、「ひとりで生きる」人の多かった都市部よりも災害被害が少なくその後の立ち上がりも早かったことはよく知られています。

震災のような非常時だけの問題ではありません。いま私たちの身の回りでおこっている、子どもを狙う犯罪や事故、高齢者の孤独死などのなかにはちょっとした地域の見守りや支えあいがあれば、(もちろん完璧ではないまでも)防げるものが多くあります。そんな大げさな想定をしなくとも、孤独になりがちな高齢者や小さな子どもを抱えてがんばるお母さんたち、リタイアして居場所を失った中高年、周りに認めてもらえなくて自分を見失いかけている子どもや若者たちにとって「人と人とのつながり」の中に居る（コミュニティの中で、自分が自分として認められる、認め合う。すなわち、居場所がある）ということはとても大切なことのはずです。

近年、私も含めて少しずつですが、「地域コミュニティがしっかりしていることが安心の基盤」だということに気づき始めているように思います。とりわけ、子育て真最中の若い世代を中心に、父親の積極的な子育て、子どもの見守り活動に参加する親たちが増えつつありますし、地域のことは地域で決める最近、自分の地域のいいところを大切にし、気になるところを改善していくことで、それぞれの地域ごとに自分の地域を自分たちで住み心地よくしていこうとする地域が増えてきていて、そのなかで地域コミュニティの役割が見直されていると思います。

私たちはこれまで、税と引き換えに、一方的に行政からサービスを受けてきました。私は地域に直接関わる福祉や教育、そして地域内の公園づくりなどの環境整備など、すべて行政任せで生活してきましたが、私が思うつながりがあるもの、作るには…

- ・一人ひとりがつながる意識を持つこと（あいさつをするなど身近なつながりづくりから、PTAや老人会など様々な団体とのつながりをつくること）

- ・つなぎ役になって地域においてネットワークを形成すること
- ・普段からみんなが話し合い、交流できる場があること（そこから小さなコミュニティが生まれること）
- ・地域の人がつながるきっかけとなるイベントがあること
- ・地域活動に気軽に参加できるような仕組み、若者を巻き込んでいく仕組みを考えること（例えば、テーマを分けて規模を小さくすること）
- ・イベントだけでなく、地域の課題に取り組んでいく中でのつながりづくりや役割分担をしていくこと
- ・高齢者等が孤立しないように見守りや見回りを行う中で、また災害を想定した避難訓練や防犯パトロールを行う中で地域のつながりをつくること
- ・ネットを効果的に活用するなど積極的な情報の公開・共有を行い、地域の人を巻き込んでいくこと。また情報発信にあわせて地域の良い点を伝えていくこと
- ・積極的に地域の担い手を地域で発掘、育成し、世代交代が上手くできるような仕組みを考えること
- ・テーマごと役割分担をすることで、特定の人が重荷にならないよう配慮すること
- ・地域活性化のための地域での施策の方針をつくること、取組の優先順位をつけること。そのために地域の意見をしっかりと聴く仕組みをつくること
- ・子どもが安全に暮らせ、また、幼少の頃から地域に愛着を持たせるような取組を行うこと
- ・町会等について 町会等のつながりを強めること 町会等のあり方も時代に合わせて変えていくこと、入りやすい仕組みをつくること、町会等のあり方を見直すこと、町会等と他の団体とが連携していくこと

以上が私の思う、つながりの作り方、あるところでは。

富士見市も人口が増えておりますが、各世代、各家族のルールだけでは考え方、捉え方が異なるため、狭い地域から広い地域を知る情報共有ツールが富士見市は多くあるので活用し、多く顔を合わせる事が苦手、時間が作れない世代、新しく入ってきた世帯にも広がる情報共有ツールも大事。知らないだけで行動したい人もいるはずです。

#### (5)

つながりは自分でつくるものだと思う。自分の興味のある身近なところの集団、例えば歴史に興味があるから市民学芸員になった。そこで他のボランティア活動をしている人に会い・・・という具合に。市民学芸員制度は年齢的にも受け継がれて良い制度だと思います。

40代・50代がどのようなことに興味をもっているのかアンケートをとるのも一つの方策かと思います。いろいろな情報が満ちあふれている現在、ネットで調べられても人と人のつながりは得にくいでしょう。

異年齢の交流という点では南畑地域を深掘りすると何か得られるかも知れません。

(6)

共通の課題／価値観／興味・関心を持つ人々の間に、または概念的な「地域」との間にあるものだと思います。しかし、本来は暮らしの中でいろいろな「つながり」が遍在しているはずでありながら、「個」が置かれている環境や自他への関心度合いの強度などによって「つながり」は偏在している状況があり、「つながり」を持ちたくても持てない人や「つながり」は必要ないと感じている人がいるのではないかとも思います。

どのように「つながり」をつくるのかについては、人が他者や地域と「つながり」を持つための「端子」は人によってその形状や数、長さ、強さが異なることに留意して、「つながり」をもたらす仕掛けづくりを考える必要があると思います。

(7)

集まって活動することをイメージして話し合いが進んでいますが、いまは別のつながり方もあるようです。

コロナ以前ですが、PTA広報の発行を最小限の会議回数で発行した事例を聞きました。号ごとの担当分担、役割分担をしてあとは担当者間のSNSやメールでのやり取りで仕上げたようです。広報の発行はとても楽だったとのことでした。

ただ、対面の有無は別にして、こういった効率的なやり方だけでなく、非効率的な中にも見出していける物が多くあるように思いました。広報の発行作業だとしても、学年を越えて多くの関わりを持つことで、テーマへの関心を深めることができたり、子育てについての大きな学びや気づきにつながったかもしれません。

地域社会のような広い年代を抱えたところでは、さらに大きな成果が得られそうです。残念ながら、その意味を感じることに、実感を持つことができにくくなってきているように思います。

(8)

富士見市の出生率、高齢化率は県内の他の市に比べて今のところそれほど深

刻には考えられないが、時代や社会環境などに伴い世代間の人間関係が希薄になってきたことは、事実だと思います。地域で幸せな社会生活を送るにはコミュニティの充実が大切なことになると思います。歴史や文化を次世代に伝え、継承し、時代に調和した生活や社会を作り上げていくことはとても重要です。

私が住む地域では、自治会が中心となって神仏の祭典等が縮小されながらも丁寧に行われています。また地域のイベントも多く開かれ、世代を超えて沢山の人が楽しんで参加しています。

(9)

世代のつながり 地域のつながり 学校と家庭のつながり 時代のつながり  
過去—現在—未来のつながり 住民と行政のつながり 異校種間のつながり  
家族間のつながり etc. 思うがままにつながりを挙げてみました。やはり、  
今一番地域の中で求められているのは、世代間のつながりではないかと考えて  
います